

蘭越町

面積：449.68km²
 人口：5,959人（男2,869、女3,090）
 （平成17年9月現在）
 世帯数：2,424世帯（平成17年9月現在）
 町の木：こぶし
 町の花：こぶし
 町名の由来：アイヌ語の「ランコ・ウシ」（桂の木が多いところ）から転訛したもの。
 ホームページ：<http://www.town.rankoshi.hokkaido.jp/>
 メールアドレス：info@town.rankoshi.hokkaido.jp



蘭越町地域振興課地域振興係

主事 小寺直和

道の駅

「シェルプラザ・港」「らんこし・ふるさとの丘」

道内屈指の7つの温泉郷

蝦夷富士とも呼ばれる北海道の秀峰・羊蹄山を望み、ニセコアンヌプリやイワオヌプリなど美しいニセコの山々に囲まれた自然豊かなまち、後志管内の蘭越町。町の中央を東西30kmにわたり尻別川が流れ、この清流の恩恵を受け「ほしのゆめ」など特Aランク評価のおいしい米作りが行われています。

同町を語るうえで忘れてはならないのが道内屈指といわれる7つの温泉郷で、それぞれに泉質が異なるのも魅力です。「美人温泉」として評判も高く、肌がなめらかになる重曹をたっぷり含んだ「昆布川温泉郷」。冬は山スキーのベースキャンプ地として人気の「昆布温泉郷」。昔懐かしいたたずまいが残る「薬師温泉郷」。おしゃれなペンションやロッジが立ち並ぶ「湯の里温泉郷」。チセヌプリの南麓に湧く熱湯の沼、「大湯沼」を泉源にする「湯本温泉郷」。奥新見溪谷上流の深い山間にある「新見温泉郷」。そして「五色温泉郷」は、四季折々どの季節も雄大な自然を感じながら湯船につかることができ、冬は高さ4mにも及ぶ雪壁が名物です。道内を代表する温泉郷の一つとして広く知られています。

こうした温泉郷は釣りやウインタースポーツ、登山などレジャーを楽しむための拠点としても利用されており、一年を通じてたくさんの観光客が訪れ、豊かな自然を堪能。農業とともに観光もまた町の大事な産業となっています。また観光を支えるうえで道の駅は大変重要な役割を果たしてお

り、道内各地でも2005年（平成17年）は新たに6つの駅が誕生し、これで92カ所となりました。同町にも国道229号（追分ソーランライン）沿いに同年10月1日「シェルプラザ・港」がオープンし、これにより既存の「らんこし・ふるさとの丘」につき町内で2つ目の道の駅となりました。

個性豊かな2つの道の駅

どちらかというと山のイメージが強い蘭越町ですが、岩内町と島牧村の間の日本海側の一部もまた同町のエリアで、海岸線約4kmを有する港町地区があります。今回誕生した「シェルプラザ・港」も海を間近にするこの港町地区に位置し、早くも認知度が高まってきました。以前は町の直売センターだった現代的な建物を利用しての施設で、米をはじめ地元の素材を使った加工品が豊富に並びます。山菜やキノコを使った三升漬け。ウドやフキのもろみ漬けはご飯はもちろん、酒の肴にもぴったり。ピリ辛のセロリキムチは適度な歯応えが食欲をそそります。また、最近疲れ気味の



道の駅「シェルプラザ・港」

方には尻別川で捕れたヤツメウナギを原料にしたドリンク「八ツ目うなぎパワーローヤル」で、元気をつけてみては？ 隣接して世界の貝類を展示する「貝の館」があることから、きれいなお土産用の貝殻も販売しています。

「貝の館」は、海を生かした地域振興を目指して策定された「シーサイドパークみなと構想」の中核施設として、第1貝の館が1991年（平成3年）7月29日に開館。標本展示を中心とした第1館に対し、1994年（平成6年）10月29日には神秘的な海中をイメージし、浜や岩礁のジオラマ、カラーコルトンなどを用いて海や貝の知識が楽しく学べるよう工夫した第2館が開館しました。

大きな貝殻を思わせる屋根がユニークで、国道229号を走行していると「はっ」と目を引く建築デザインが印象的です。常時1500種類、5000点以上が展示されており、珍しいウミノサカエイモや重さ194kgもあるオオジャコガイを見ることができます。

もう一つの道の駅「らんこし・ふるさとの丘」は国道5号沿いにあり、パークゴルフ場やバンガローを整備しキャンプもできる「リンリン公園」が隣接。生産者が直接ジャガイモやカボチャなど採れたて新鮮な野菜を納品しているので、品質の良さは折り紙付きです。軽食コーナーではそばやソフトクリームなどが食べられ、特産品の販売もあります。緑豊かな田園風景を楽しみながらのドライブ途中、ほっとひと息つけるスポットです。

ちなみにドライブにおすすめの見どころといえば、町の北西に位置するコックリ湖。樹齢200～300年にもおよぶダケカンパなどの原生林が湖を囲み、湖面に映る神秘的な風景に、きっと心癒されるはずです。新見温泉に近い紅葉の滝は、秋にはぜひ訪れたい場所です。

魅力あるプランで観光に力を入れる

自然と親しむイベントが多いことも特色の一つで、毎年7月下旬には尻別川で「川の日」への理解を深め、川への感謝の気持ちを育むことを目的に「せせらぎまつり」が行われています。コンサートやフリーマーケットなど楽しい内容盛りだくさん。9月には尻別川河川敷で「カムバック・サーモン・名駒」が実施され、メインイベントのサケのつかみどりに、とる方も、見る方も大はしゃぎです。大鍋で作るサケ鍋やチャンチャン焼きがふ



貝の館



道の駅「らんこし・ふるさとの丘」

るまわれ、秋の味覚を味わいます。スキーシーズン最後の4月にはチセヌプリ周辺で「ニセコ連峰歩くスキー大会」が行われ、子供からお年寄りまでさわやかな汗を流しながらゴールを目指します。

近年、「健康づくり」をキーワードに高齢者のパークゴルフ熱が高まっており、どこの自治体でもパークゴルフ場の整備には大変力を入れており、大会なども開催。現在、総合運動公園内など町内には6カ所のパークゴルフ場があり町外からの利用者も増えているようです。自慢の温泉、JR昆布駅前にある町営の「幽泉閣」の食事付き日帰り入浴とパークゴルフのプレイをセットしたプランなど、魅力ある内容でさらなる集客増のピーアールも忘れてはなりません。

市町村合併が進んでいる北海道ですが、同町はこれからも合併という選択肢を選ばず魅力ある町づくりをしたいといいます。地域振興課地域振興係・小寺直和主事の「自然の豊かさはいうまでもなく、人工ふ化などが学べる『フィッシュ・アンド・名駒』や、マルチシアターで周囲の自然を紹介する『大湯沼自然展示館』など体験学習施設も充実。アウトドアに、スポーツに、そして温泉。町を訪れた方はきっと喜んで帰られていると思いますし、これからもさらに喜ばれるよう努力しアイデアも出していきたいと考えています。道の駅も2つになりました。ぜひ観光やレジャーで蘭越町にお越しください」という言葉に、力が入りました。